

バイオマスタウン構想分析DB

[【リンク】立花町バイオマスタウン構想](#)

公表回	公表年月日	構想見直し		都道府県名	市町村名	人口	面積
		公表回	公表年月日			(人)	(km ²)
19	2007.4.26			福岡県	立花町	12,530	86.64
構想の要約		本町は、全国の町村の中では第一位の竹林面積を有しており、国内でも有数の筍の産地である。このような特性を生かし、竹材を中心としたバイオマス資源を堆肥・液肥・竹炭・竹酢液、チップ化によるボイラー燃料等に変換するなど、これら資源を有効活用することによって地域産業の振興を目指す。					
構想に盛り込まれた事業		<ul style="list-style-type: none"> ・竹チップを用いた施設園芸用ボイラーの実用化 ・堆肥化施設の運用と竹堆肥・液肥の活用 					
バイオマス利活用目標		添付別紙参照					
バイオマスタウン構想概要図		添付別紙参照					

利用するバイオマス					
廃棄物系バイオマス		未利用バイオマス		資源作物	
家畜排せつ物	○	稲わら・もみがらなど	○	資源作物	
農業系廃棄物(廃菌床など)	○	野菜等非食部	○		
食品廃棄物	○	間伐材・林地残材			
廃食用油		果樹剪定枝	○		
水産加工残さ		竹材	○		
製材工場等残材	○	その他()			
建設発生木材	○				
街路樹・公園・家庭剪定枝、刈草					
古紙・廃棄紙					
下水汚泥など	○				
その他()					

利用するバイオマス変換技術			
マテリアル利用のための変換技術		エネルギー利用のための変換技術	
堆肥化(土壌改良材・肥料を含む)	○	バイオガス化(メタン発酵)	
飼料化		直接燃焼	
バイオマスプラスチック製造		ガス化	
その他(マルチ)	○	炭化	○
		固形燃料化(チップ・ペレット・RDFなど)	○
		バイオディーゼル燃料化	
		バイオエタノール化	
		その他()	

バイオマスタウン実現に向けた取組の進捗状況	
記入年月日	記事
2010.07.27	農村振興局助成措置:平成18年度、(株)主計物産、たけのこ加工残さ、堆肥化施設の整備

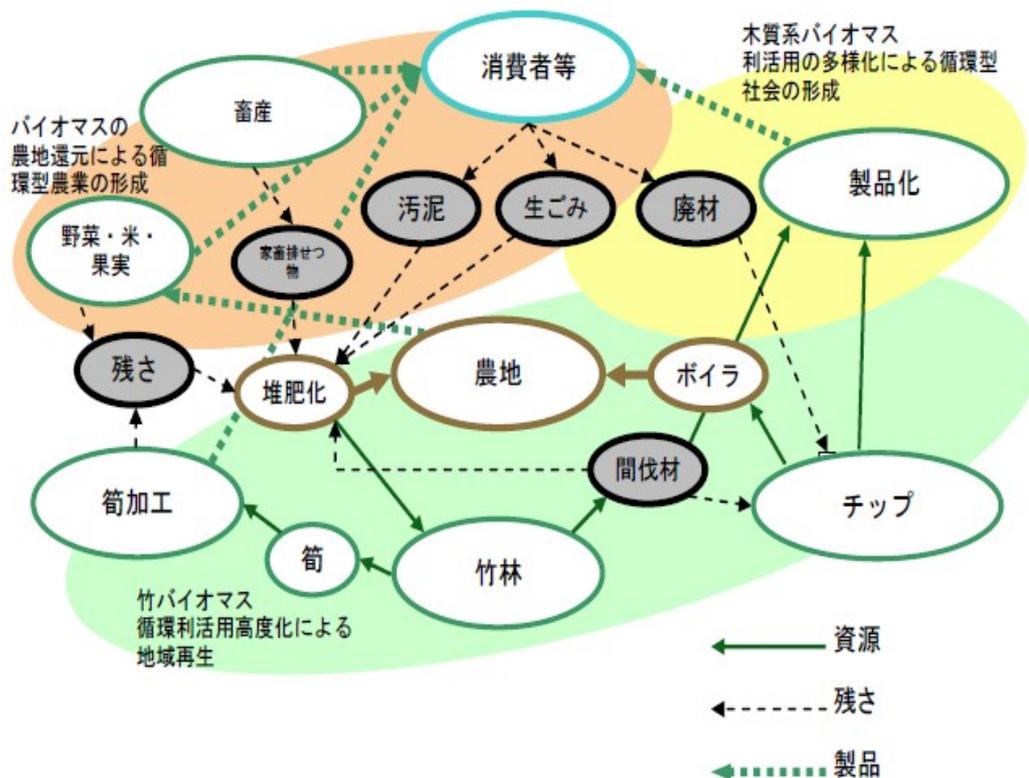
実現した事業	添付別紙参照
--------	--------

バイオマス利活用目標
(バイオマスタウン構想書からコピー)

バイオマス	賦存量		変換・処理方法	仕向量		利用・販売	利用率
(廃棄物系バイオマス)							79%
①筍加工残さ	2,600	t/年	堆肥・液肥化	2,600	t/年	堆肥・液肥	100%
②カット野菜	250	t/年	堆肥化	250	t/年	堆肥(自家利用)	100%
③一般廃棄物(生ごみ)	379	t/年	家庭用コンポスト機	18	t/年	堆肥(自家利用)	5%
④家畜排せつ物	1,971	t/年	堆肥化	1,773	t/年	堆肥	90%
⑤建設廃木材	596	t/年	チップ化	370	t/年	ボード原料、製紙パルプ、ボイラー燃料等	62%
⑥製材残材	3,745	t/年	チップ化	3,535	t/年	敷料、製紙パルプ等	94%
⑦汚泥	4,034	t/年	広域事務組合に委託	2,017	t/年	農地還元	50%
(未利用バイオマス)							58%
⑧竹材(間伐竹)	29,470	t/年	堆肥・液肥化 チップ・製品化	16,320	t/年	堆肥、液肥、チップ、竹炭、竹酢液、家具、民芸品等	55%
⑨稲わら	1,470	t/年	農地還元	1,029	t/年	マルチ、有機肥料	70%
⑩もみ殻	221	t/年	敷料等	132	t/年	敷料、マルチ、有機肥料	60%
⑪麦わら	189	t/年	農地還元	56	t/年	マルチ、有機肥料	30%
⑫農業系廃棄物 (収穫残さ、廃棄野菜)	507	t/年	農地還元	101	t/年	有機肥料	20%
⑬果樹系廃棄物 (剪定枝等)	4,551	t/年	チップ化、堆肥化等	3,186	t/年	堆肥等	70%

バイオマスタウン構想概要図

(バイオマスタウン構想書からコピー)



実現した事業(その1)

事業の名称	
事業者名	
事業所名	
住所(施設の所在地)	
利用するバイオマス	
利用する変換技術	

事業の概要	添付別紙(パンフレット等)参照
	(事業形態、事業構成メンバー、出資比率、事業開始時期、施設の概要、プラントメーカー、建設業者、イニシャルコスト、ランニングコスト、原料単価、製品単価、経営状況、事業運営の課題、成功・失敗要因など記入)